

研究機関名：国立大学法人筑波大学

競争的研究費の直接経費からの研究代表者(PI)の人件費支出に係る
活用実績報告書（令和 6 年度）

1. 実施状況

①事業名	②直接経費から人件費を支出した、所属 PI の人数（人）	③所属する PI について、直接経費から支出した人件費の総額（円）	④所属する PI について、直接経費から人件費を支出したことにより確保した財源の総額（円）
革新的 G X 技術創出事業（基金）	1	2,966,000	2,966,000
研究成果展開事業 A-STEP 産学共同（育成型）	1	922,000	922,000
戦略的創造研究推進事業（CREST）	2	4,850,000	4,850,000
戦略的創造研究推進事業（さきがけ）	6	5,700,000	5,700,000
戦略的創造研究推進事業 ALCA-Next	1	2,200,000	2,200,000
創発的研究支援事業	7	4,600,000	4,600,000
革新的先端研究開発支援事業（AMED-PRIME）	2	1,600,000	1,600,000
再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	1	1,304,000	1,304,000
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	1	1,000,000	1,000,000
生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）	1	1,999,000	1,999,000
戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）	2	4,348,000	4,348,000
戦略的スマート農業技術の開発・改良	1	1,000,000	1,000,000
安全保障技術研究推進制度	1	719,000	719,000
合計	27	33,208,000	33,208,000

2. 確保した財源の使途、具体的な活用内容、効果等

(本制度に申請した研究代表者等への研究力強化策)

○研究代表者等へのインセンティブ付与（特別貢献手当の支給）により、研究代表者等の処遇改善を行い、研究パフォーマンスの向上や課題推進のモチベーションにつながった。

○特別貢献手当について、具体的に下記のような活用、効果があった。

- ・出張時の子の保育費用などに使用するなど、子育て中でも領域会議や学会に参加しやすくなった。
- ・家事・育児代行を使用して研究の時間を増やすことができた。
- ・領域会議への出席のために土日の出張も増えたが、処遇が改善されたことで家族も積極的に協力してくれた。

(本部が講じた研究力強化策)

○全学的な研究支援を担う人材として研究推進部に配置する 2 名の事務職員（専門職員を含む）の人件費として使用した。

○創発的研究支援事業及び日本学術振興会に係る事業の支援等を中心に、若手研究者の育成、研究環境の整備、外部資金獲得の支援等に係る全学的な研究支援を展開し、本学の研究力強化に貢献した。

3. 策定した活用方針や活用実績を公表している研究機関のホームページ等の URL を記載してください。なお、各研究機関における研究力向上に向けた実施事例については、好事例として政府のホームページでも公表させていただく場合があります。

<https://ura.sec.tsukuba.ac.jp/kyousoutekikennkyuuhiseido>